

青い波北陽台

平成30年 8月31日 発行
長崎県立長崎北陽台高等学校
西彼杵郡長与町高田郷3672
TEL 095-883-6844
FAX 095-883-0776
発行責任者 野中 光治

「長崎の8月」

教頭 古賀 巖

今年の夏は例年にない酷暑が続き、日本各地で熱中症や最高気温の更新のニュースが続きましました。また、大雨や台風による災害もあり、特に7月の広島・岡山を中心とした西日本豪雨災害では多くの尊い命が失われ、多くの方々が被災されました。まずは心よりお見舞い申し上げます。

8月は皆さんにとってどんな月でしょうか。夏休み、学習合宿、試合、お盆等々いろいろあると思います。長崎にとっての8月は他の地域とは違った意味を持つことは皆さんもよくわかっていると思います。73年前、一発の原子爆弾が長崎に投下され15万人もの人々が死傷したのです。長崎に住む我々は幼少期から戦争や原爆についての平和教育を受けてきましたが、それでも被爆遺構を直接見たり、語り部の方の話を直接聞いたことがない人もいるのではないのでしょうか。ましてや他県では長崎に原爆投下があったことは知っていても8月9日や11時2分という日や時間すらほとんど知られていないのが現状です。皆さんは広島への原爆投下の日や時間を知っていますか(1945年(昭和20年)8月6日午前8時15分です)。被爆した方々の平均年齢も83歳を超え、終戦から73年が経過した今、戦争は知らなくても長崎の地で育った我々が平和に対してできることを考えてもいいのではないのでしょうか。

今年の長崎原爆の日にアントニオ・グテレス国連事務総長が「平和とは、抽象的な概念ではなく、偶然に実現するものでもありません。平和は人々が日々具体的に感じるものであり、努力と連帯、思いやりや尊敬によって築かれるものです。」と講演の中で述べられました。今我々が生活する中で、「普通」「普段通り」という平和の中での日々の生活のありがたさを実感し、身近なことでも小さなことでもいいのでそのための努力を行って欲しいのです。そして1年に1度、当時の生活や惨劇に思いをはせ、今の自分が生活している時代を考え、今のそして将来の平和について考えてほしいと切に願っています。

今の世の中は国際化、情報化といわれ、皆さんの周りにもインターネットや様々なメディアを通じて国境を越え世界中の情報や考え方が簡単にしかも大量に入ってくる時代です。アメリカのマーケット、ヨーロッパの音楽、南米の政治、アフリカの紛争等の世界各地の情報から、流行りのお店やTwitterなどの個人情報まで欲しい情報はすぐに手に入れることができます。そんな環境の中で、これから多くの問題に対する様々な考えに耳を傾け、情報を精選し、自分の考えをしっかりと持つことは非常に大切になってきます。単に大学へ行くため、自分のため、に勉強するのではなく、それらの情報を自分の中の「善悪」と照らし合わせて、将来の社会・地域に対してどのように関わり貢献していけるのか。日本や世界の未来や平和について考えてもいいのではないのでしょうか。

理数科研修

- 1年理数科長大水産学部研修 8月2日(木), 3日(金)
- 2年理数科長崎大学研修Ⅱ 8月7日(火), 8日(水)
- 2年理数科長崎県立大学研修 8月9日(木)

8月の月上旬に理数科の1, 2年生の研修が行われました。1年生は、6班に分かれ、「地域に発信! 未来の科学者」というテーマのもとで研修を行いました。また2年生は、放射線の影響や現代の医療について、実際に見て、聞いて、体験活動をして学びました。



各部活動の主な成績

陸上部：平成30年度全国高等学校総合体育大会 男子800m 森康太郎 準決勝進出

理数科：中四国九州理数科研究発表大会

ステージ発表の部 柿本拓海, 田中颯翔, 野寄拓海 優秀賞

ポスター発表の部 中原幹 山本武蔵 渡邊克明 優秀賞



平和学習

今年度も、長崎原爆の日(8月9日)に、平和学習を行いました。今年度は、例年と違い、各ホームルームで第二次世界大戦や原爆に関する資料を配布し、放送部による被爆体験期の朗読を行いました。その感想文の一部を紹介します。



毎年、この日に平和学習をして実際に被爆された方の講話を聞いたり、戦争について考えたりしています。毎年思うことですが、講話を聞いても動画や画像を見ても、悲惨な様子は想像できますが、私たちに想像できていない苦しみや暑さ、どこか他人事のように感じている一発の原爆の恐ろしさがあります。ですが、私は私なりに戦争について考え、被爆された方々の講話にかける思いを感じ取っています。今回、資料を読んで、8月6日、9日のための長期計画がしっかり組まれていることを初めて知りました。中学校の先生が「戦争の反対は話し合い」と言っていました。身近なところから平和な世界を作るために自分の意見をしっかりと持ち、主張していきたいと思います。今日の朗読こそ、語り継ぐ第一歩だと思います。

各学年より

1学年主任 林 圭介

「文化祭・体育大会に向けて」

短い夏休みが終わり、校内実力試験から学校生活が再開しました。この間、自学合宿を経験するなど、学習に対する意識を新たにすることができたのではないかと思います。

さて、7月に実施された校外記述模試の結果が返ってきました。感想はどうだったでしょうか。高校になって初めての全国規模の試験となります。43万人以上が受験した試験ですので、ほぼセンター試験の現役の受験者数と同じぐらいだと思います。6月中に文理選択をしてもらいましたが、志望校はぼんやりとでも思い描けているのでしょうか。この人数の中で自分がどの位置にいるのかを把握するのは、かなり大切なことだと思います。次は11月に同じような校外記述模試が実施されますので、目標を持って取り組んでみてください。

この後、すぐに文化祭と体育大会が控えており、暑い中で準備が大変だろうと思います。初めての行事ばかりですが、今年度は「40周年記念」ということで、かなりのプレッシャーがかかっていることでしょう。クラスや班の人たちと力を合わせて、より良いものを作り上げていってください。

2学年主任 下村 かおり

夏の過ごし方

今年の夏は記録的な猛暑に見舞われ、“40℃超え”の報道に驚愕することも少なくなった。暑さを凌ぐために夏休みは始まったのだと勝手に思っていたが、調べてみると、夏休みの明確な目的は不明だそうである。始まりは明治14年だそうであるが、その期間や登校日等については各地区町村の教育委員会が決めることになっているとか。長崎県民にとってはごく普通である“8月9日の登校日”設定に驚く他県民も多い。では、夏休みの意義は何なのだろうか？数年前に、脳科学者の茂木健一郎は、「・・・夏休みの本質は、ぼんやりすること、ほうけることだと思う」と述べている。「夏の間は、みーんみーん、ジリジリとぼんやりしていて、新学期とともに“はっ”とするのが良い」そうだ。この夏、普段はできないことにチャレンジして心身のリフレッシュを図った人も多かったはず。とはいえ、本校生徒の皆さんは、将来の目標達成のためにただぼんやりとだけしてはいられなかったのも事実。いよいよ夏も後半戦。この夏の過ごし方が、秋、冬にじわじわと効いてくるはずである。

3学年主任 池田 裕一

Smells Like Teen Spirit

3年生にとっては高校生活最後の夏があっという間に過ぎ去り、今度は最後の体育大会が目前に迫ってきました。どの班も虎視眈々と総合優勝を狙っていることでしょう。そこで、優勝する班の特徴を、傾向と対策を知るためにいくつか挙げておきます。

- 3年生だけで盛り上がるのではなく、下級生とうまく融合している。
- 行進が上手。特に1年生の男子がきちんとしている。
- リレーや団体種目ではない一般の種目を疎かにせず、全力を尽くしている。
- 集合が早い。

当たり前と言えば当たり前のことですが、細かいところに注意が行き届いている班はそれだけ一人一人の意識が高いということでしょう。（そのまま受験勉強にも当てはまることでもあるでしょう。）

残り少ない10代の思い出として、皆さんの若さあふれるさわやかな香りで会場を満たしてほしいと思います。

自学合宿

1年生と3年生は、7月下旬から8月上旬にかけて、自学合宿を行いました。1年生は長崎市内のホテル長崎をお借りし、3年生は雲仙市の青雲荘といわき旅館に分かれて行きました。仲間と共に勉学に励み、1日11時間を超える勉強時間にも耐え抜くことができました。集中して取り組むことで、11時間があっという間に過ぎてしまうという生徒の声も上がっていました。

○1年生 7月24日(火)～7月27日(金) **3泊4日** ホテル長崎

○3年生 7月28日(土)～8月3日(金) **6泊7日** 青雲荘 いわき旅館



ホテル長崎



青雲荘



いわき旅館

9月の主な予定

- 2日(日) 創立40周年記念文化祭 オープンスクールⅡ
- 3日(月) 代休(9/2分)
- 7日(金) 代休(9/8分)
- 8日(土) 授業日
- 9日(日) 創立40周年記念体育大会
- 10日(月) 代休(9/9分)
- 15日(土) 校外マーク模試(3年) 土曜自学(1・2年) 進学ゼミナール(大村)
- 16日(日) 校外マーク模試(3年)
- 20日(木) 試験時間割発表
- 27日(木)～10月2日(火) 2学期中間試験(1・2年) 学年末試験(3年)

